



第129期 報告書

2020年1月1日 ▶ 2020年12月31日

鳥居薬品は、

世界に通用する医薬品を通じて、

お客様、株主、社会、社員に対する責任を果たすとともに、

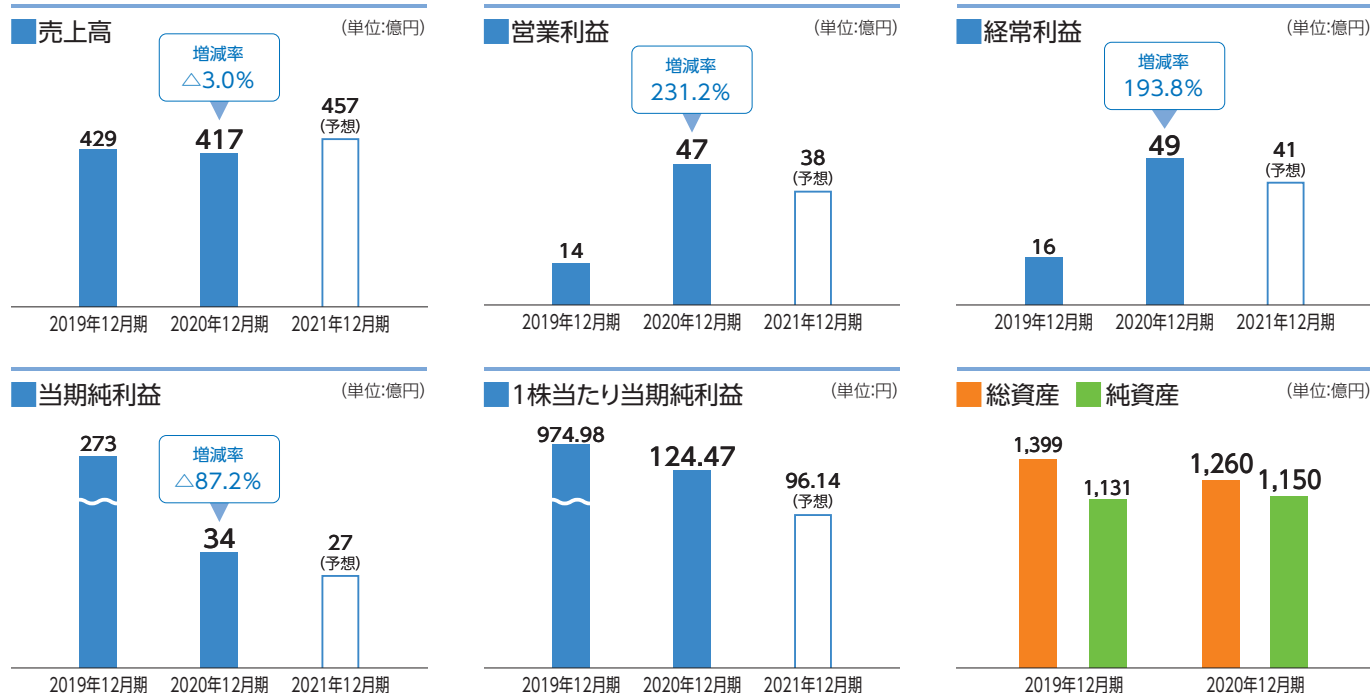
人々の健康に貢献します。



決算のポイント

- 1 売上高は、製商品売上高において前事業年度の水準を確保するも、抗HIV薬6品の流通経過措置終了に伴い手数料収入が減少したこと等により、41,700百万円と前事業年度に比べ1,297百万円(3.0%)減少。
- 2 腎・透析領域の製商品売上高は、主に「レミッチ」が薬価改定、後発品の影響を受けたことにより、14,773百万円と前事業年度に比べ3,231百万円(17.9%)減少。
- 3 アレルゲン領域の製商品売上高は、アレルゲン免疫療法のさらなる普及により「シダキュア スギ花粉舌下錠」及び「ミティキュア ダニ舌下錠」が伸長し、11,332百万円と前事業年度に比べ3,705百万円(48.6%)増加。
- 4 営業利益は、研究開発費が減少したほか、前事業年度に実施した事業構造改革の効果等により費用が大きく減少し、4,738百万円と前事業年度に比べ3,307百万円(231.2%)増加。
当期純利益は、3,495百万円となり、前事業年度において特別利益に抗HIV薬6品の販売権返還に係る譲渡益があったことから、前事業年度に比べ23,872百万円(87.2%)減少。

決算ハイライト





ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

第129期(2020年12月期)の経営成績につきましてご報告いたしますので、ご高覧いただきますようお願いいたします。

今後とも当社は、事業構造改革、成長戦略及びステークホルダーからの信頼維持を柱とする「中期経営計画2021」の目標/課題を着実に達成すべく、全社一丸となって取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、より一層のご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

2021年3月

代表取締役社長 **松田 剛一**

2020年度の概況

当事業年度の医薬品業界を取り巻く事業環境は、新薬開発の難度の高まりや研究開発費の高騰、国際競争の激化等により事業リスクが増大する中で、特に国内市場においては、薬価改定、後発品使用促進等、医療費抑制の要請の強まりにより、大変厳しいものとなりました。また、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、患者様の医療機関への受診抑制傾向が見られることや、医薬情報担当者(MR)の医療機関への訪問自粛等、事業活動に影響を受けました。

このような状況の下、当社では、「中期経営計画2021」期間中の営業利益(新規事業投資(新規導入品の獲得及びM&A等を含む投資)に係る費用を除く営業利益)の黒字継続と、黒字幅の拡大を目標とし、「中期経営計画2021」の重要課題である事業構造改革、成長戦略、ステークホルダーからの信頼維持に取り組んでまいりました。

当事業年度は、事業構造改革施策の効果等により、営業利益の黒字の確保及び増益を達成しました。なお、医薬情報担当者(MR)の医療機関への訪問自粛等、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に対しては、ITを活用した医薬品の適正使用情報提供活動の拡充等により対応しました。

2021年度の見通し

医薬品業界を取り巻く事業環境は、薬価改定、後発品の使用促進の影響等、さらに厳しくなり、また、医薬情報担当者(MR)の医療機関への訪問自粛等、新型コロナウイルス感染症による事業活動への影響は継続するものと見込まれます。

このような状況の下、当社におきましては、フランチャイズ領域である「腎・透析領域」「皮膚疾患領域」「アレルギー領域」における主力品の維持・拡大に努めるとともに、引き続き「中期経営計画2021」に基づく事業構造改革及び成長戦略の実行に取り組んでまいります。

売上高につきましては、「腎・透析領域」において、「レミッチ(透析患者における経口そう痒症改善剤)」は薬価引下げ及び後発品の影響が見込まれますが、「リオナ錠(高リン血症治療剤)」の効能追加による増加、「皮膚疾患領域」におきましては、新製品である「コレクチム軟膏(外用JAK阻害剤)」の早期市場浸透・拡大、「アレルギー領域」におきましては、「シダキュア スギ花粉舌下錠(アレルギー免疫療法薬)」及び「ミティキュア ダニ舌下錠(アレルギー免疫療法薬)」のさらなる市場拡大に取り組むことにより、製商品売上高は前事業年度に比べ増加する見込みです。

利益面につきましては、売上高の増加に伴う売上原価の増加に加え、売上連動経費、新製品の発売等に伴う販売費用及び研究開発費の増加、パソコン更新等の一過性費用の発生等により販売費及び一般管理費も増加する見込みであることから、営業利益、経常利益、当期純利益は前事業年度に比べ減少する見込みです。

●2021年度業績予想

	2020年度実績	2021年度予想	増減額
売上高	417億円	457億円	39億円
営業利益	47億円	38億円	△9億円
経常利益	49億円	41億円	△8億円
当期純利益	34億円	27億円	△7億円

配当について

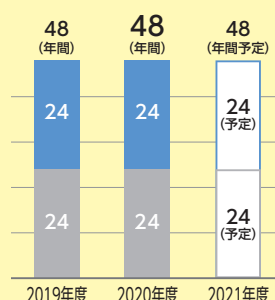
配当方針

当社は、株主の皆様への適正な利潤の還元を経営の重要課題の一つと認識し、剰余金の配当につきましては、継続的かつ安定的に実施することを基本方針としております。

2020年度期末配当支払開始日
3月26日

1株当たり配当金 (単位:円)

■ 中間配当 ■ 期末配当



「中期経営計画2021」の進捗及び当期のハイライト

第129期
2020年12月期

1月

- JTがDermavant社から導入した皮膚疾患治療薬「Tapinarof」の日本国内における共同開発及び販売に関する契約締結
- JTがアトピー性皮膚炎治療薬「コレクチム軟膏0.5%」の日本国内における製造販売承認取得

2月

- 「中期経営計画2021」の進捗状況及び目標の見直しの公表

3月

- 経営の監督と業務執行のさらなる分離を旨とした経営体制の見直しを実施(取締役会の過半数を独立社外取締役で構成する体制)

4月

5月

- JTによる「リオナ錠(クエン酸第二鉄水和物)」の鉄欠乏性貧血に対する効能追加に係る承認事項一部変更承認申請の実施
- JTによるJAK阻害剤「JTE-052(デルゴシチニブ)軟膏」の日本国内における製造販売承認申請等の実施(小児アトピー性皮膚炎)

6月

- あすか製薬株式会社と「リオナ錠(クエン酸第二鉄水和物)」の鉄欠乏性貧血の効能追加に関するコ・プロモーション契約締結
- アトピー性皮膚炎治療薬「コレクチム軟膏0.5%」新発売



7月

- 事業構造改革の一環として、佐倉工場を岩城製薬株式会社に譲渡
- 新規ライフサイエンス系投資ファンドへの出資

8月

- 米国Verrica社の皮膚疾患治療薬「VP-102」の日本国内での独占的開発・商業化権に関するオプション契約締結

9月

- JTが腎性貧血治療薬「エナロイ錠2mg、4mg」の日本国内における製造販売承認取得

10月

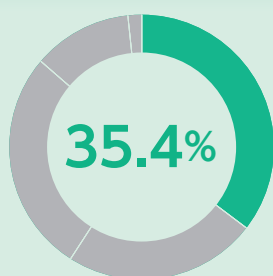
11月

12月

- 腎性貧血治療薬「エナロイ錠2mg、4mg」新発売



●腎・透析領域



売上高 14,773百万円

18,005

14,580
(予想)

2019年12月期

2020年12月期

2021年12月期

腎・透析領域におきましては、「リオナ錠」が薬価改定の影響により6,507百万円と前事業年度に比べ123百万円(1.9%)減少し、「レミッチ」は薬価改定に加えて後発品の影響もあり6,365百万円と前事業年度に比べ2,328百万円(26.8%)減少しました。

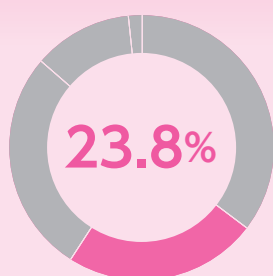
リオナ錠

高リン血症治療剤



体内へのリンの吸収を抑制することにより、慢性腎臓病患者(血液・腹膜透析患者、保存期腎不全患者)さんの高リン血症を改善する薬剤です。

●皮膚疾患領域



売上高 9,918百万円

9,049

12,680
(予想)

2019年12月期

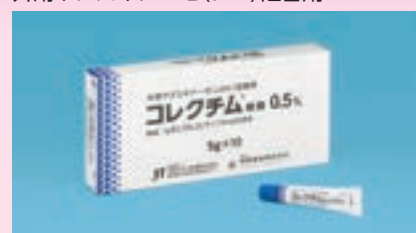
2020年12月期

2021年12月期

皮膚疾患領域におきましては、「アンテベート(外用副腎皮質ホルモン剤)」が薬価改定の影響により5,241百万円と前事業年度に比べ198百万円(3.6%)減少しました。なお、2020年6月に販売を開始した「コレクチム軟膏」は1,291百万円となりました。

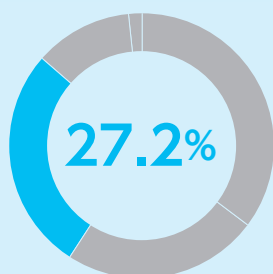
コレクチム軟膏

外用ヤヌスキナーゼ(JAK)阻害剤



細胞内の免疫活性化シグナル伝達に重要な役割を果たすヤヌスキナーゼ(JAK)の働きを阻害し、免疫反応の過剰な活性化を抑制することでアトピー性皮膚炎を改善する、世界初の外用JAK阻害剤です。

●アレルギー領域



売上高 11,332百万円

7,627

13,510
(予想)

2019年12月期

2020年12月期

2021年12月期

アレルギー領域におきましては、アレルギー免疫療法のさらなる普及により「シダキュア スギ花粉舌下錠」は6,139百万円と前事業年度に比べ2,484百万円(68.0%)増加し、「ミティキュア ダニ舌下錠」は4,776百万円と前事業年度に比べ2,027百万円(73.7%)増加しました。

シダキュア スギ花粉舌下錠

スギ花粉症のアレルゲン免疫療法薬



スギ花粉症に対する舌下投与のアレルゲン免疫療法薬であり、日本国内で初めて成人及び小児等において使用可能となった速溶性の舌下錠です。

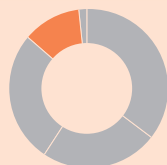
ミティキュア ダニ舌下錠

ダニアレルギーのアレルゲン免疫療法薬



ダニ抗原によるアレルギー性鼻炎に対するアレルゲン免疫療法薬です。本剤は、2018年2月に小児適応に係る用法・用量の追加承認を取得しています。

●その他



12.0%

売上高 5,029百万円

1.6%

売上高 647百万円

遺伝性血管性浮腫 (HAE) 発作抑制薬「オラデオカプセル150mg」の 日本国内における製造販売承認取得について

株式会社オーファンパシフィック (以下「オーファンパシフィック」) が日本国内における製造販売承認申請を行った血漿カリクレイン阻害剤「オラデオカプセル150mg」(一般名:ペロトラルスタット塩酸塩、以下「オラデオカプセル」) について、遺伝性血管性浮腫 (Hereditary angioedema: HAE) の急性発作の発症抑制を適応症として、2021年1月22日に、日本国内における製造販売承認を取得しました。

オラデオカプセルはBioCryst Pharmaceuticals, Inc. (以下「BioCryst社」) が日本国内での開発を実施した医薬品であり、2015年10月に先駆け審査指定制度の対象品目に指定され、2018年12月に希少疾病用医薬品の指定を受けております。また、製造販売承認申請は、オーファンパシフィックがBioCryst社との契約に基づき実施しており、薬価収載後は、2019年11月に当社がBioCryst社と締結した日本国内における販売に関する契約に基づき、当社がオラデオカプセルの販売を行います。

当社及びオーファンパシフィックは、オラデオカプセルが遺伝性血管性浮腫 (HAE) 治療の新たな選択肢になるものと期待しております。

主な研究開発品 (2021年2月4日現在)

開発番号 「製品名」	予定適応症等	剤形等	開発段階 (国内)					備 考
			PhaseⅠ	PhaseⅡ	PhaseⅢ	申 請	承 認	
腎・透析領域								
JTT-751 「リオナ [®] 錠」	鉄欠乏性貧血	経口剤				申請		● Keryx Biopharmaceuticals, Inc.と日本国内における独占的開発・商業化権に関するライセンス契約を締結 ● 日本たばこ産業株式会社 (以下「JT」)との共同開発 (適応追加) ● JTが2014年1月に高リン血症治療剤として製造販売承認を取得し、当社より販売中 ● JTが2020年5月に効能追加に係る承認事項一部変更承認申請
皮膚疾患領域								
JTE-052 「コレクチム [®] 軟膏」	小児アトピー性皮膚炎	外用剤				申請		● JT創製化合物 ● JTと日本国内における共同開発及び販売に関するライセンス契約を締結 ● JTが2020年5月に製造販売承認申請等
	乳幼児アトピー性皮膚炎	外用剤			PhaseⅢ			● JT創製化合物 ● JTと日本国内における共同開発及び販売に関するライセンス契約を締結
アレルギー領域								
TO-203 「ミティキュア [®] ダニ舌下錠」	室内塵ダニアレルギー疾患 (アレルギー性喘息) (アレルギー免疫療法薬)	舌下錠		PhaseⅡ/Ⅲ終了※				● ALK-Abelló A/Sと日本国内における独占的開発・販売権に関するライセンス契約を締結 ● 自社開発 ※今後の開発方針について検討中

上記のほか、以下の契約を締結しております。

● 2020年1月 JTがDermavant Sciences GmbHと日本国内における皮膚疾患領域での独占的開発・商業化権に関するライセンス契約を締結したアリル炭化水素受容体 (AhR) モジュレーター (tapinarof) について、日本国内における共同開発及び販売に関する契約 (JTとの共同開発)

● 2020年8月 Verrica Pharmaceuticals Inc.との間で、同社が有する皮膚疾患治療薬VP-102について、日本国内における独占的開発・商業化権を獲得するためのオプション契約

(参考)

2017年10月にJTが、EirGen Pharma Limitedと慢性腎臓病患者における二次性副甲状腺機能亢進症 (SHPT) 治療薬であるcalcitriol徐放製剤 (米国での販売名「RAYALDEE®」、OPKO Health, Inc.が開発及び販売) について、日本国内における独占的開発・商業化権に関するライセンス契約を締結した旨、また、製造販売承認取得後の販売については、当社が行う予定である旨、公表しております。

当社の親会社であるJT (うち医薬事業部門) とは、医薬品に関する製品及びサービスにおいて、各々の強みを生かし、当社は主に製造と販売の機能を担っており、親会社は研究開発の機能を担っております。なお、親会社の研究開発の状況は、JTウェブサイト上の「医療用医薬品臨床開発状況」をご参照ください。

<https://www.jti.co.jp/investors/library/business/briefing/index.html>



会社概要

商号	鳥居薬品株式会社
設立	1921年11月1日
資本金	5,190百万円
主要な事業内容	医薬品の製造・販売
従業員数	568名 (注)従業員数は、当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を含む就業人数です。
本社	〒103-8439 東京都中央区日本橋本町3-4-1 トリイ日本橋ビル TEL:03-3231-6811 (代表)
主な事業所	北海道東北支社(宮城県仙台市)、関東信越支社(埼玉県さいたま市)、南首都圏支社(東京都中央区)、中部支社(愛知県名古屋市)、関西支社(大阪府大阪市)、中四国支社(広島県広島市)、九州支社(福岡県福岡市)

役員 (2021年3月25日現在)

取締役・監査役

代表取締役社長	松田 剛一	常勤監査役	山本 賢
取締役	鳥養 雅夫	監査役	出雲 栄一
取締役	福岡 敏夫	監査役	松村 卓治

執行役員

常務執行役員	掛江 敦之	執行役員	角南 正記
常務執行役員	藤原 勝伸	執行役員	西野 範昭
常務執行役員	近藤 紳雅		

(注) 社外取締役 鳥養 雅夫及び福岡 敏夫、社外監査役 出雲 栄一及び松村 卓治は、東京証券取引所の規則に定める独立役員として同取引所に届け出ております。

株式数

発行可能株式総数	54,000,000株
発行済株式総数	28,800,000株

株主数

株主数 (単元未満株主を含む)	4,022名
-----------------	--------

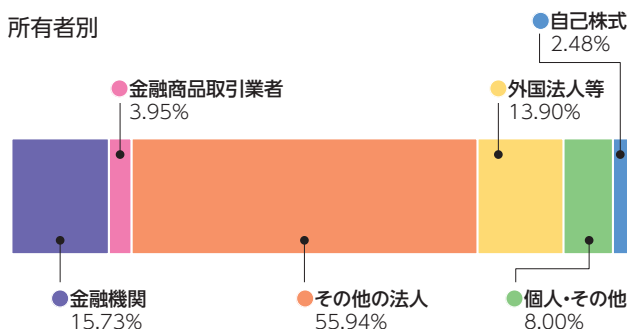
大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
日本たばこ産業株式会社	15,398,800	54.82
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,367,300	4.86
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	1,007,200	3.58
立花証券株式会社	961,900	3.42
株式会社三井住友銀行	340,800	1.21
J.P. MORGAN SECURITIES PLC FOR AND ON BEHALF OF ITS CLIENTS JPMSP RE CLIENT ASSETS-SETT ACCT	309,700	1.10
株式会社日本カストディ銀行(信託口9)	262,300	0.93
GOVERNMENT OF NORWAY	232,600	0.82
MLI FOR CLIENT GENERAL OMNI NON COLLATERAL NON TREATY-PB	208,800	0.74
株式会社日本カストディ銀行(信託口5)	198,700	0.70

(注) 持株比率は、自己株式(714,558株)を控除して計算しております。

株式分布状況

所有者別



株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
基準日	定時株主総会・期末配当：毎年12月31日 中間配当：毎年6月30日
公告方法	電子公告 (https://www.torii.co.jp/) ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 (電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 TEL: 0120-782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。

住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

未払配当金の支払について

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。



鳥居薬品株式会社

〒103-8439 東京都中央区日本橋本町3-4-1 トリイ日本橋ビル
TEL 03-3231-6811 (代表)

